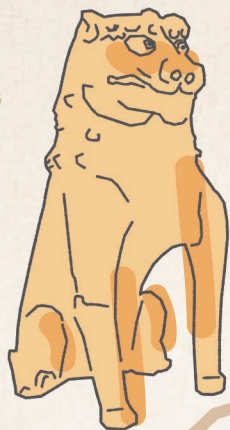


日本遺産のまち

瀬戸へ行かんで
どこへ行く。



陶製狛犬

瀬戸のソウルフード



ごも(五目めし)

いろいろな具がはいった
味ごはん。仕事の合間でも
簡単に栄養補給。



うなぎ

スタミナ食。
大変な窯たきもこれを
食べれば元気百倍です。



かまがみ じんじや
窯神社

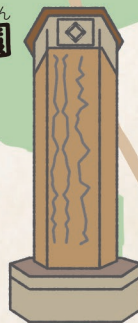


きゅうやましげしやうてん
旧山繁商店



ふかがわじんじや
深川神社

陶祖公園



かまがきこみち
窯垣の小径

おわりせとえき
尾張瀬戸駅



めいてつせとせん
尾張瀬戸線



せとぐら
瀬戸蔵



こせとへいし
古瀬戸瓶子

瀬戸は「日本六古窯」のひとつで、平安時代から続くやきもの産地として日本遺産に認定されています。やきものづくりが続く瀬戸のまちには、製品を窯の中につめるために使っていた道具を利用した窯垣や、陶祖や磁祖ゆかりの神社や寺があります。そこには陶祖ゆかりの陶製狛犬や鎌倉時代につくられた古瀬戸瓶子が伝わっています。また、まちから離れたまわりの山々には、平安時代から室町時代に使われた窯跡が残っています。

やきものづくりが盛んな瀬戸は、たくさんの職人が仕事をする「職人のまち」でもありました。瀬戸へ行けば何かしら仕事があり、買い物や娯楽のための店もそろっていました。そして人々が集まりにぎわったため「瀬戸へ行かんでどこへ行く」という言葉が使われました。